

京都革新懇

No199 会員ニュース 2009年 1月17日 発行

日本の平和と民主主義・革新統一をめざす京都の会
http://www.kyoto-kakusinkon.net

〒606-8397
京都市左京聖護院川原町4-13 教育会館別館
TEL/FAX 共用 075-724-8270

全国革新懇の 3つの共同目標

- ①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

品川 正治 講演会 を開催します。

3月27日(金)
西陣織会館

品川正治氏
経済同友会終身幹事
全国革新懇代表世話人

詳細は追ってニュース・ホームページなどに掲載します。

今年こそは憲法改悪を狙う勢力に国民のNO!を突きつける年にしたいものです。

そして今年の七月二五・二六日には第五五回日本母親大会が、ここ京都にやってきました。暑い京都がますます暑くなっていくことですが、なんとしても全国のお母さん、女性のみならず、そして男性の方も含めて、大勢の方々を喜んでお迎えしたいと思っています。どうぞ京都の民主的なみなさんのお力添えをよろしくお願いいたします。

母親大会が始まって五十五年目。この前の名古屋の大会で渡辺先生(一橋大)は、最初の憲法改悪の策動に抗した一九五〇年代の運動の一つとして母親大会を挙げられました。そしてその後六〇年近く憲法は無事生き続けることができた。今また憲法改悪の動きが盛んになってくるときこの運動が大きな意味を持っているとおっしゃいました。



京都母親大会連絡会会長
中尾 牧

二〇〇九年 あけまして
おめでとございます。
今年、日本母親大会が、
ここ京都にやってきました。

恒例になっている十二月八日の 平和行動、赤紙配り

昨年暮、恒例になっている十二月八日太平洋戦争開始の日の平和行動、赤紙配りをしました。召集令状の写しが赤い紙に印刷されたチラシを配って憲法署名を集める行動です。毎年全国で母親運動が取り組んでいるもので、もう三〇年にもなります。今年はいつもの年より受け取りがよく、特に八〇歳くらいの方が自ら求めてチラシを受け取り署名をしてくださる、そういう姿がありました。そして「戦争はやっばりあかん。」とおっしゃいます。ご自分の体験を冷静に振り返られるようになってこられたのかなと思います。

何千万人も命を奪った戦争、その悲惨な体験からもう二度と戦争はしたくないという決意のもと生まれたのが日本国憲法であり、それが戦後の生きる希望だったという事を今噛みしめて生きている方がいらつしやるのです。戦後に生まれた私はその思いを受け継いでいなくては、と深く思います。「憲法9条ってなんや?」と言う若者も、ポケット憲法を見せるとじつくり読んで「これは大事。」と即署名してくれます。いま本当に国民の多くの思いを寄せ集めていくことが求められているのです。

「核戦争の危機から子どもたちを 守り……」と始まった母親運動

一九五五年日本から呼びかけて、「核戦争の危機から子どもたちを守りましょう。」世界中のお母さん手をつなぎましょう。」と始まった母親運動は、日

本ではその後毎年続けられてきました。日本の母親たちは、小児麻痺の生ワクチンを、給食の脱脂粉乳を生牛乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入、勤評反対、物価値上げ許すな、ベトナムの母と子を守るつ、基地強化反対、自衛隊の海外派兵を許すな、等等たくさん要求を掲げ運動を続けてきました。そしてそれは今、憲法を守り生かそうということに集約されつつあるのではないのでしょうか。

日本母親大会は大きな「共感」の場です。人間の特性である「他者の中に自分を見る」その共感の思いを広げて、憲法を守り生かす国民的な総意を作っていく取り組みにしていきたいと決意しています。

府下各地七十カ所以上で 「赤紙配り」連鎖行動

母親大会連絡会が毎年十二月八日に全国で取り組む「赤紙配り宣伝行動」(全国連鎖平和宣伝行動)が各地で行われました。京都では、府下七十カ所以上で行われました。

「赤紙配り宣伝行動」のメインの四条河原町では、十一時三十分から母親連絡会のメンバー十数人が赤たすきをかけて、「赤紙」を配布。「日本の政府は、このような紙切れ一枚で成年男子を戦場に引き出しました」「ふたたび日本を戦争する国にしなないように力を合わせましょう」と訴えました。



2009年 各地域革新懇等の抱負

青年も運動に合流しながら連帯の輪を広げよう

京都市での雇用担当部局の創設、国政にあっては数十年来の雇用における「規制緩和」の見直しなど、私たちが街頭やポスティングで一人ひとりから集めてきた青年労働者の“声”が、政治・行政を動かしてきています。

今、景気後退を錦の御旗に、大企業で大量の解雇・雇い止めがおこっています。あまりにも身勝手な大企業の姿勢に、労働者側も組合に入ったり、あらたに結成するなど反撃も始まっています。民青同盟もこうした運動に合流しながら連帯の輪を広げ、今おこっている逆流を跳ね返し、前進を築きたいと思えます。

民青同盟京都府委員会 委員長 長谷川幹

宇治久御山革新懇を再開します。

雇用不安で年をあけた2009年は、派遣法の第1人者である大橋範雄先生の講演（話題提供）と懇親会で幕をあけたいと思えます。

体制確立が最初の課題です。共同代表と事務局、そして世話人をきっちりしたいと思います。

12月12日「金融講演会を開催」

京都革新懇は大門さん（日本共産党参議院議員、財政・金融委員会）を迎えて十二月十二日「金融講演会を開催」急な企画にかかわらず各界より83名の参加。

大門参議院議員は、今日の景気悪化は、自公政権の「構造改革」路線で国民経済が痛めつけられた上に、アメリカ発の金融危機に見舞われていることが原因と指摘。国民生活を守るためには、投機マネーの規制や「構造改革」路線の中止、外需だのみから内需主導へ抜本的に転換する必要性を強調しました。この方向が、今経済界で共感を広げていることを紹介され、参加者からも度々の拍手がおこりました。なお、講演会の前にハートピア前で街頭演説会をおこないました。



舞鶴革新懇 佐渡 一郎

「いったい日本の明日はどうか？」と大きな不安、閉塞感の日々を国民におしつけているのが自公政治です。2代つづいた首相の仕事なげすて、相つぐ食品偽装、汚染米問題、気候変動への無策、非正規労働者切り、カジノ資金主義と自公政治は終わりです。新しい社会体制がもとめられています。これに応える革新懇の運動をすすめるために体制をととのえ強化し「行動する革新懇」へと、変革を決意しています。

左京 岸本 忠明

私は、この2年間、京都学習協の哲学講座を受講してきました。講師は鯉坂先生です。それを糧に「資本論」に再挑戦。「資本論の経済学と『論理学』」を学びます。昨今の国内外の経済変動のその「近代社会の経済的運動法則」はこの本に著わされています。国民の勇気ある社会と時代への挑戦に私も革新懇・平民懇を通じて参加します。

綾部市 吉崎 ひさし

昨年、なんとか「準備会」をと決意しましたが、届きませんでした。今政治が大きく変わろうとしている中、なんとしても今年こそは綾部でも「革新懇」をスタートさせるべく、決意新たにしています。「歯車の回転」は一つが欠けてもうまく回りません。一つの歯車となるようがんばりますのでみなさんのご指導よろしくお願い致します。

革新・山科の会 野原 孝喜

麻生内閣の支持率が、昨年暮れの時事通信社では一六・七%まで下がり麻生離れ・自民離れが進み何も出来ない民主党には期待できない。革新懇の出番です。再建して二年、革新・山科の会に多くの人に参加できる取り組みを強めて、政治革新の実現を目指して活動したい。

大切な二〇〇九年を迎えました。自公政治はゆきづまりを深め、対話、共同が広がる情勢です。

二〇〇九年、京都革新懇運動の「確かな前進へ」いっそうがんばります。お力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

二〇〇九年一月

日本の平和と民主主義・革新統一をめざす京都の会
(京都革新懇)

レポート

仕事と暮らし、農業と地場産業を守る丹後連絡会 石井 内海

1993年の平成の大不況と言われたときのサンデー毎日、12月19日付の表紙のところに大不況、京の里で22人自殺。同時にNHKのクローズアップ現代でもとりあげました。3ページにわたってこの記者がスクープしているわけですが、大不況、丹後ちりめん京の里で22人次々と自殺、妻は夫の首を絞め、手に包丁、朝出かけた夫は車ごと火だるまにという小見出し。

1993年をはるかに超えたような状況が丹後で

みなさん、今はこの状況をはるかに超えたような状況が丹後で起こっています。このときは保険金を解約したり、預貯金を切り崩して、いわゆるいのちを担保にしながら家族を守ってきたというのが実態でした。でも今は解約すべきものもありません。そういうきわめて格差と貧困の増大の中でも明日の生活がままならない。そういう事態が今、丹後で起こっています。引いては地域が崩壊するのではないかという危機感に私たちはさいなまれています。私たちはそのときに農業と地場産業を守る丹後各界連絡会を農民、業者、婦人、年金者、労働組合がいっしょになって組織人数は約450名ですが結成して、今日までずっとたたかいを継続してきました。ついこの間、11月19日には振興局や京丹後市、労基署、職安等へ申し入れも行ったところです。

京丹後市民そのものがワーキングプア状況

丹後の状況は平成13年から18年の6年間で事業所が730廃業に追い込まれて、従業員1790名、解雇されています。丹後で2万8000と言われる就業人口のうち、1万7000人が非正規雇用です。この数は今日はもっとも増えてきているというふうに思っております。また、業況判断もマイナス62です。これは府の平均の3倍強です。こういう事態の中で府民所得も府平均が29万ですが、丹後はそれよりも10万少ない。200万に満たない。まさに京丹後市民そのものがワーキングプア状況というふうに言わざるを得ません。

合併前のときは公共事業の92%地元業者に発注されましたが、昨年は67%にまで激減をしました。受注が地元業者に行き渡らない。だから地域の中にお金がまわらない。地域循環型経済が成り立たないというのが今、丹後の実態です。外部からやってきた大手を中心にした企業は昨年だけでも1年間で10億からお金を増やして、

利益はすべてもちかえってしまう。こういう状況が今、丹後に起こっております。入札価格等もきわめて低くて、赤字覚悟で仕事を受けなければならないというのが実態です。

機械金属、激減 織物関係も壊滅的な状況

機械金属、いろいろな人から話がありましたが、10月からもう激減をして、3割ぐらいにしか満たない。従業員をかかえているようなところでは、まさに死ぬか、生きるかという瀬戸際だという話すら出てきています。また信用保証協会がOKしても、金融機関の貸し渋りで融資すらも受けられない。また融資を受けようかという見通しのもとにやるわけですが、それすらも言えないという零細業者、丹後の深刻さを物語っているというふうに思っております。

また織物関係も壊滅的な状況です。1200万反の最盛期を誇った丹後ちりめん、全国生産の7割を誇っておりましたが、今年は50万反を切るのではないかと。工賃も全盛期の工賃の2分の1ぐらいになるかと思われまいます。みなさんの給料がそれぐらい減ったら生活が成り立ちますか。まさにそうだというふうに思っております。

農業関係も資材費用の高騰でたいへん

農業関係も資材費用の高騰でたいへんな状況です。自殺者も昨年38名を数えました。昨年、全国一と言われた秋田県が10万人あたり403人です。丹後は6万5000ですから、10万人にあてはめると585人になります。異常な事態です。私は自殺は社会の過労死だと思っております。自治体が真っ先にやらなければならないことは、貧困をつくりだしてはならない。そのことを今こそ自治体は肝に銘じるべきです。後期高齢者医療制度が直撃をして、年金、国民年金だけでは食べていけない。そういう悲鳴です。

この間、共産党の近畿比例区の宮本候補が丹後に見えて川柳を披露されておりました。普通、川柳というのは滑稽さや笑いを誘うようなものが多くあります。

宮本候補の川柳を紹介しますと「うばすての 入山料を ひきおとし」.....わかりますよね、もう胸打たれました。「国のため 死んでくれと 二度いわれ」と詠われておりました。文字通り、つぶされてたまるか！切り捨てられてたまるか！という気持ちで全力で丹後の運動をみなさんとの連帯の中で強めていく、そういう決意を申し上げます。

■住民の力が西山を変える 第2回乙訓シンポ

乙訓革新懇は7日、「住民の力が西山を変える！まちづくりを変える！」のテーマでシンポジウムを開き62人が参加しました。

パネリストは「竹の学校」理事長の杉谷保憲さん、鎮守の森の会代表の上田昌弘さん、乙訓の自然を守る会代表の宮崎俊一さん。コーディネーターは京都自治体問題研究所副理事長の市川哲さん。

杉谷さんは森林のなかで竹林の比率が全国では1%だが乙訓では20%、天王山では45%をしめており、竹林をどう整備し活用するかは大切な課題と指摘しました。竹がCO2を吸収する力が強いこと、地下水の涵養にとっても大変役立っていることなどを強調しました。行政頼みではなく市民の運動として挑戦したいと報告。

上田さんは向日市の向日神社の鎮守の森が荒廃し、昼でもうす暗い森を住民のボランティア運動で一步一步整備しいまではだれでも散歩できる明るい森に変えたこと、勝山古墳公園を整備したことを映像を使って鮮やかに映し出しました。さらに水上勉の小説「櫻の森」のモデルになった笹部新太郎氏が滅んでいく日本古来の桜を守ろうと品種の改良や保存に一生を捧げたことを知り、桜の苑植樹祭に取り組んでいると報告。

宮崎さんは西山の乙訓地域は地形、地質が変化に富んでおり、生物の多様性が高いこと、そのキーワードとしての「遷移」「常緑樹が勝つ」「攪乱」について説明し、乙訓の生物や動物を映像で紹介。桂川河畔林のヒメボタル保存などの経験にふれ、生物の多様性を守るには人の手入れが必要なこと、市民、行政、地元が協力して守る時代に入っていることを強調しました。

質疑では竹炭など竹の活用、マスコミ対策など質問が出されました。

参加者からは「感激です。私にも何かできればと思います。」「知っていたようで本当は全然知らなかった乙訓の自然を次々と目で見せていただき圧倒されました。」「このような内容で住民の力を生かして活動されている方々のシンポを続けてほしいと思いました。」などの感想が寄せられました。(梅林照夫)



後期医療の廃止を

京都連絡会が集会・デモ

「後期高齢者医療制度、もうやめてんか！」

5回目の保険料天引き(12月15日)を前に14日、同制度の廃止を求める集会(後期高齢者医療制度廃止京都連絡会主催)が京都市内で行われ、250人が参加。集会後の河原町通パレードでは、約200本ののぼりを掲げて廃止をアピールしました。



学費ゼロの流れを京都から

学費ゼロネットと京都府学連は12月14日、京都市中京区で学費無償化を求める「学費ゼロ大集会」を開き、約200人が参加しました。

集会後は京都市内中心部を「学費が高すぎるぞ」「学費を値下げしよう」とシュプレヒコールしながらアピールウオークを行いました。



2009年
全国規模の祭典・大会が京都で
開催されます。

7月25・26日 第55回
日本母親大会 京都で開催

二〇〇九年
日本のうたごえ祭典・京都
09年10月23日(金)~25(日)
大音楽会 府立体育館(10/24 予定)
全国の発表会 京都市内
(10/23、25 予定)

第16回全国中小商工業 研究交流集会

京都で初開催されます。
2009年8月29日~31日
「記念講演」清水寺貫主さん